教育目標：心豊かに　たくましく伸びていく子供

千布小学校だより

６月号　H30.6.26
天童市立千布小学校
校長　三好　義宏

地域から学ぶ学校に

先日の校長講話で、天童市出身の故赤塚豊子さんの詩について、話をしました。脳性小児まひで体が不自由になっても、懸命に生き続けた女性が作った詩です。

講話が始まる前に、ステージの上に拡大した詩を掲示しておきました。子供たちは何だろうと思い、講話が始まった時はちょっとざわついていましたが、私の話が終わる時には、シーンとなっていました。難しい内容かもしれませんが１年生であろうと心に受け取るものがあったようです。

この話は、昨年度発刊された「天童市道徳自作資料選集」に『赤いランドセル』として収載されており、これまでも、地域の道徳資料として受けつがれてきています。

千布地区でも、地域の人からもお手伝をいただきながら地域の題材を、学校教育に取り入れていきたいと考えておりますので、その節は宜しくお願いいたします。

※校長講話の原稿より。

ワタシハ　アルク　　アカツカトヨコ

ワタシハ　アルク　マボロシノアシデ
ソウ　マボロシノアシデ　アルクノダ　ドコマデモ
イナカミチノヨウナ　デコボコシタジンセイノミチヲ
タトエ　ワタシノニクタイガ　モエルホノオノナカヘ　キエテモ
ワタシニヨッテ　ツクラレタマボロシノアシハ
アルキツヅケルノダロウ
ワタシハ　ヨジノボル　マボロシノアシデ
ソウ　マボロシノアシデ　ヨジノボルノダ　チカラノアルカギリ
マガリクネッタ　ヤマミチノヨウナジンセイノミチヲ
タトエ　ワタシノイコツガ　クロイツチノナカヘ　キエテモ
ワタシノタマシイハ　マボロシノアシノウゴキヲ　トメナイダロウ

まず、私がこの詩を読みますので、聞いてください。

１、２年生には難しかったかもしれません。でも今日は、この詩の内容について考えるわけではないので、分からなくてもいいことにします。

皆さんも、気付いた通りすべてカタカナで書いてあるのには訳があります。皆さんは全員、鉛筆を握ってノートに字を書くことができますね。良かったですね。では、鉛筆を握れない人は、どうやって文字を書き表すのでしょう。それも、今ではなく５０年前だったら。ヒントは、カタカナです。そう、カタカナのタイプライターで、一本指で一文字一文字打ち込み、この詩は作られたのです。

作った人は、赤塚豊子さんです。今から、７０年前、津山地区の下貫津に生まれました。１歳で小児まひと診断され、手は自由に動かせず、歩くこともできず、言葉を発することもできなくなり、学校に通うこともできませんでした。他にも、様々な病気にかかり、２５歳の若さで亡くなった女性です。彼女の頭はしっかりしており、ベッドの上に横たわり、カタカナのタイプライターで詩を作っていました。身体が自由に動かなくても、一人の人間として懸命に生きていたのです。先ほどの「私は歩く」の詩は、本当は歩けない体ですが、心の中にある幻の足で歩いたことを書いた詩なのです。

私は、二つのことをみなさんにお願いしたいと思います。

一つ目は、親が与えてくれた大切な命を、ばかにしたり、粗末にしたり、投げやりに扱ったりしてはいけません。自分の命も、人の命もです。動かない体で懸命に生きている人もいるのですから。

二つ目は、人の体や心は、みなそれぞれ違っています。やれないこと、やれることも違っています。自分とそっくりのコピー人間はいません。それらの違いに対して、優しくあってほしいと思います。それは、思いやり、難しい言葉で「恕」です。

これで、私の話を終わります。

求める子供像　「自ら考え、学び続ける子供・思いやりをもち、つながりを深める子供」をめざして

諸事情があり、本格的に水泳授業が始まったのは、先週からです。補助プールに一番最初に入っていた学年は２年生でした。そして、本プールで泳いでいたのはクワガタムシでした。それを捕まえて、植物観察をしていた３年生に飼育を委託しました。さっそく次の日、M君は棲家を考え飼育を開始しました。土日は、家に持ち帰って育てていたようです。棲家・餌など、育て方が３年生で共有されていくのでしょう。

今年は、全国学力・学習状況調査に理科が加わる年です。１問目は、学校の玄関の上にひなのいる鳥の巣を発見し、その後に観察する方法が問われていました。①梯子を使って登って観察②棒の先に鏡を付けて観察③鳥かごに入れて教室で観察④ビデオカメラで撮影しあとで再生、から２つを選ぶ問題です。

理科の教科書に、まったく同じ状況の観察方法が正解として載っている訳ではありません。これからは、ベースとなる知識・技能・思考力・判断力などを

学校で獲得し、それをもとに、新しい課題に活用できる子供が求められているのです。さて、正答は②と④です。干布小学校では、教科書を大切にしながらも、日々起こる自然事象や社会事象に、自ら目を向けられる子供に育てて行きます。

子供の様子と教員の指導の意図がわかる、学級通信からの抜粋を紹介します。今回は５学年です。

５年生　深瀬先生　道徳『懸命に生きる子どもたち』

少し前になりますが、『懸命に生きる子どもたち』という資料をもとに、道徳の授業を行いました。この資料のもとになった本の著者は、池間哲郎さんです。沖縄県生まれの池間さんは、アジア各国のスラム街やごみ捨て場などで貧困生活をおくっている人々のために、調査や支援活動を続けている人です。

この資料を読んだ子供たちは、「世界の８０％、５０億人以上の人々は、アジア・アフリカなどの貧しい国々に住んでいて、栄養失調の状態の人が１１億人以上いる。」「６億もの人々は今日の食べ物さえ手に入れられず、泥水やためた雨水を飲むことしかできず、病気になる人々がたくさんいる。」などの事実を知り、とても驚いたようでした。

この資料を読んだあと、どう思ったのか発表してもらいました。「**貧しい国が多いことを知り、びっくりした。（Ｋ男）**」「**日本に住む自分たちは、恵まれていて幸せだ。（Ｒ男・Ｙ男）**」「**わたしたちは日本でぜいたくをしていて、申し訳ない。（Ｈ子）**」などなど、次々と感想が発表されました。

その後は、わたしたちにできることは何かを考えました。「**食べ物を残さないで、ありがたくいただく。（Ｈ男・Ｓ男・Ｙ男）**」「**水を大切に使う。（Ｔ男）**」などのほかに「**ぼ金に協力する。（Ｍ男・Ｙ男）**」「**ペットボトルキャップ集めをして、ワクチンをあげる。（Ｒ男・Ｒ子）**」などの考えが出されました。

児童会の学校環境委員会で、ペットボトルキャップ集めをしています。８００個のペットボトルキャップが集まると１人分のポリオワクチン代になります。子供たちと相談して、３０人分のポリオワクチンを贈るという目標を決めました。（以下略）

６月７日に行われた、天童市小学校陸上運動記録会に６年生が出場し、自己記録更新をめざしました。干布小学校の規定により、各種目１位の児童にメダルを授与しました。

ソフトボール投げ１位　男子　水戸部雄斗さん
〃　　女子　矢野　零奈さん

ベスト６には、蓮さん（ハードル）・月菜さん（走高）が入り、全員がはつらつとした姿を見せてくれました。

【地域の花輪さんに史跡めぐりの先生を】